

あっと! デジタル

朝日新聞 広告制作マニュアル ver.11

(2022年8月改訂)

朝日新聞

INDEX

ごあいさつ・主な変更点	2
PDF送稿の準備	3
制作	
基本的な注意事項	5・6
画像データを作成する	7~9
レイアウトデータを作成する	10~12
送稿データを保存する	13~15
送稿データを検証する	16・17
制作上の注意点	18~20
送稿エラー時の対応	21
送稿	
ワークフロー	23
本送稿の手順	24
ゲラ書き	25
送稿の種類	26
A-CAP送稿	27
規格	
原稿サイズ表	29
FMスクリーンについて	30
チェックシート	31

高品質で
安定した
広告掲載
のために

朝日新聞社では、より高品質で安定した広告掲載のために、A-CAPシステムやFMスクリーンなど、様々な新技術を導入してきました。「あっと! デジタル ver.11」は、PDFデータによる送稿を安全に行うための制作マニュアルです。PDF送稿データ作成用の「Adobe PDFプリセット」およびPDFデータ検証用の「プリフライトプロファイル」と合わせて、デジタル送稿に最適なデータ作りにご活用ください。

■「あっと! デジタル ver.11」での主な変更点

プリフライトプロファイルの更新(⇒3ページ)

朝日新聞の送稿データの検証に使用する「プリフライトプロファイル」を更新しました。

モノクロ原稿のFMスクリーン化(⇒5ページ)

モノクロ原稿もFMスクリーンに対応しました。

カラー広告の送稿に必要な色校正ゲラの枚数の変更(⇒24ページ)

カラー広告の送稿に必要な色校正ゲラの枚数が変更になりました。

その他の変更点については、各ページをご確認ください。

PDF 送稿を支援する 「Adobe PDFプリセット」 「プリフライトプロファイル」

PDF形式でのデータ送稿を安全に行うために、朝日新聞の送稿データ作成用の「Adobe PDFプリセット」およびPDFデータ検証用の「プリフライトプロファイル」をご用意しました。「Adobe PDFプリセット」は朝日新聞の送稿に適したPDFデータを作成するためのツールです。「プリフライトプロファイル」は作成したPDFデータが、朝日新聞の送稿に適応しているかを検証するためのツールです。本データの入手については、下記サイトからダウンロードできます。

朝日新聞社メディアビジネス局Webサイト「広告朝日」 <https://adv.asahi.com>

[広告朝日]トップ▶[媒体資料]▶[あっと! デジタル ver.11]

ダウンロードしたデータを解凍してください。
以下の3つのファイルがあります。

- 朝日新聞2013.joboptions (PDFデータ作成用Adobe PDFプリセット)
- 朝日新聞カラー 2022.kfp (カラー原稿用プリフライトプロファイル)
- 朝日新聞モノクロ2022.kfp (モノクロ原稿用プリフライトプロファイル)



「Adobe PDFプリセット」「プリフライトプロファイル」のインストールおよび使用方法については、「[保存の準備](#)」(⇒14ページ)をご参照ください。



制作

基本的な注意事項

画像データを作成する

レイアウトデータを作成する

送稿データを保存する

送稿データを検証する

制作上の注意点

送稿エラー時の対応

制作環境 (Mac® を使用)

送稿データの制作は右の表のOS及びアプリケーションで行ってください。

記載の環境は、朝日新聞社で検証済みのものです(すべて日本語版)。アプリケーションについては、メーカーよりアップデートが配布されている場合があります。アプリケーションは、メーカーのサポート対象となっているできるだけ新しいバージョンの使用を推奨します。詳しくはメーカーにお問い合わせください。

最新のOS・アプリケーション・ハードへの対応については、検証が済み次第Webサイトで公開します。

→<https://adv.asahi.com>

※OSがWindowsの環境で制作する際は未検証のための別途ご相談ください。

macOS®
Adobe Photoshop
Adobe Illustrator
Adobe InDesign® ^{※1}
Adobe Acrobat® ^{※2}

※1:モノクロ原稿の場合、「透明」「効果」の使用は不可。
※2:Acrobat Proのみ可。

データ形式

送稿データは、朝日新聞の送稿に適合したPDF形式(PDF/X-1a) (⇒15ページ)で送稿します。各アプリケーションのネイティブ形式およびEPS形式では送稿できません。

データサイズ

送稿データは400MB以内とします。

※パノラマ判については別途ご相談ください。

スクリーン

カラー・モノクロ原稿共にFMスクリーンとなります。(一部地域AMスクリーン) FMスクリーンの特性については、「FMスクリーンについて」(⇒30ページ)をご覧ください。AMスクリーンとなる場合のスクリーン線数、スクリーン角度、網点形状について、朝日新聞の設定は右の表の通りです。

朝日新聞のAMスクリーン設定

	カラー	モノクロ
スクリーン線数	141線	141線
スクリーン角度	C15°、M75°、Y0°、K45°	45°
網点形状	円 (Euclidean)	円 (Euclidean)

原稿のカラー

カラー原稿の場合はCMYKの4色印刷となります。単色原稿での送稿はできません。



初めてデジタル送稿を行う場合は、このマニュアルに従って原稿制作し、本送稿の前にデータを朝日新聞社までお持ちください。正しく出力できるか確認いたします。ご不明な点は、弊社までお問い合わせください。

孤立点、ガイドなどは問題が発生するので削除する。

広告の原稿サイズとアートボードまたはページサイズを完全に一致させ、ズレていないか確認する。
(送稿データにはアタリ用の罫線やガイドは入れない)

新聞広告の潜在力

新聞広告には無限の可能性がある

オフセット印刷機の増加は、86年に、術によって行われることになる。新聞62合だともが、87年には、3倍の186行になり、88年には、開製作のCTIS化である。210名ほどに増え、89年には前ビドアップされただけでなく、制作業務も同時進行で進められるようになった。このように、CTIS化によって、制作工程も同時に短縮させることができたので、合理化、省力化の面で新聞経営に大きく貢献した。記者ワイドの導入や、データベースシステムの構築も可能にした。このように、新しい技術によって、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができたので、合理化、省力化の面で新聞経営に大きく貢献した。記者ワイドの導入や、データベースシステムの構築も可能にした。このように、新しい技術によって、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

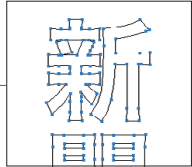
新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

新聞の制作工程は、記者が書いた原稿を活字組みにして、紙型をとり、鉛の合金を一列に流し込んで印刷し、この鉛でできた厚い版を凸版印刷機にセットして、ようやく印刷に入るといえる。この厚い版にインキを塗布し、多くの人生を介在させるものであった。これは、長い年月にわたって繰り返されてきた制作工程であったが、新しい技術によって替わることになる。新聞製作のCTIS化である。CTISは、二色入処理を大規模にスピードアップさせただけでなく、制作工程も同時に短縮させることができた。

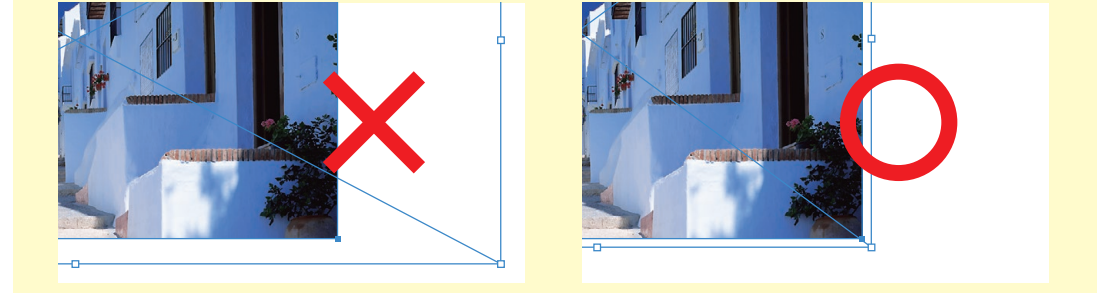


すべてのフォントをアウトライン化する。

画像は、カラーの場合はCMYK、モノクロの場合はグレースケールを使用し、それ以外のカラーモードは使用しない。解像度は適切な数値を設定する。画像はインキの総使用量が250%を超えないようにする。(▶7ページ)

色の指定はCMYKを使用し、4色のインキの総使用量が250%を超えないようにする。

画像などをマスクする場合、トリミングされた外側のオブジェクトはサイズとして認識されないが、必要以上に送稿データ容量が大きくなるので、できるだけ不要な部分は削除する。



使用アプリケーション

画像データの作成に使用するアプリケーションは、**Adobe Photoshop**とします。

■新聞原稿に適した画像

新聞の送稿用画像では、カラーモード、線数、解像度、ファイル形式などを、右の表に基づいて作成します。特にカラーモード、ファイル形式については、指定外のものを使用しないようご注意ください。また、**不要な部分はトリミングをし、必要以上に高解像度の設定をせず、送稿データ容量が大きにならないように**します。

カラー画像

カラーモード	CMYKモード
線数	FMスクリーンは無効 AMスクリーンは141線
解像度	300~400dpi
ファイル形式	EPS

モノクロ画像

カラーモード	グレースケールモード
線数	FMスクリーンは無効 AMスクリーンは141線
解像度	300~400dpi
ファイル形式	EPS

モノクロ2階調画像の解像度(原寸)

すべての広告	1200dpi
--------	---------

■カラー画像

カラー画像は必ず**CMYKモード**とし、**RGBモード**などは不可です。インキの総使用量(CMYK各インキが最も多く重なっている部分の合計値)は**250%**を超えないようにします。数値が制限を超えると、印刷の品質に影響が出ますので、特にご注意ください。Photoshopのカラー設定は以下のようになります。

- 「カラー設定」を開き、「詳細設定モード」にチェックを入れる。
- 「作業スペース」の「CMYK」で「カスタムCMYK」を選ぶ。
- 右図を参照し、「色分解の種類」は「UCR」にチェックを入れ、「インキの総使用量の制限」は「250%」とする。



この設定にしておけば、RGBからCMYKに変換した場合、カラー画像のインキの総使用量は250%を超えることはありません。また、朝日新聞のカラー原稿送稿に最適な画像を作成できる、専用のプロファイル「**A-CAP 5**」もご提供していますので、ご活用ください。(⇒8ページ)

■ロゴの制作

ロゴなどを使用する場合は、できるだけIllustratorでトレースしたアウトラインデータを使用します。

モノクロ使用の場合は、モノクロ2階調画像も使用できます。その場合は、**使用原寸での解像度を1200dpiに設定**します。既定値以上の高解像度で作成された画像データでは、細い線(1ドットの幅)などが正常に印刷されないのをご注意ください。なお、モノクロ2階調画像には、スクリーンは反映されません。

■特殊スクリーンの設定

独自のスクリーンを使いたい場合は、網分解されたモノクロ2階調画像を作成して使用します。「**プリント**」ダイアログ内の「**ハーフトーンスクリーン**」での設定は**使用不可**です。

■「A-CAP 5」を利用した画像データ制作

紙面で最適な色を再現するために、朝日新聞の印刷特性に基づいて作成したプロファイル「A-CAP 5」をご提供しています。「A-CAP 5」の入手については、<https://adv.asahi.com>をご覧ください。



[広告朝日]トップ ▶ [広告掲載のご案内] ▶ [広告入稿ガイド] → [A-CAPについて]
https://adv.asahi.com/ad_info/ad_guide/

「A-CAP 5」は、原稿制作のためのプロファイルです。送稿データにはプロファイルを埋め込まないでください。

「A-CAP 5」を利用する場合は以下の設定にします。

「Library」→「ColorSync」→「Profiles」に「A-CAP 5」をコピーし、再起動します。

Photoshopを立ち上げ、「カラー設定」を開き、次のように設定します。

「作業用スペース」

- RGB: 必要に応じて任意のカラー空間を選択。
- CMYK: 「A-CAP 5」を選択。
- グレー: 「Dot Gain 25%」を選択。

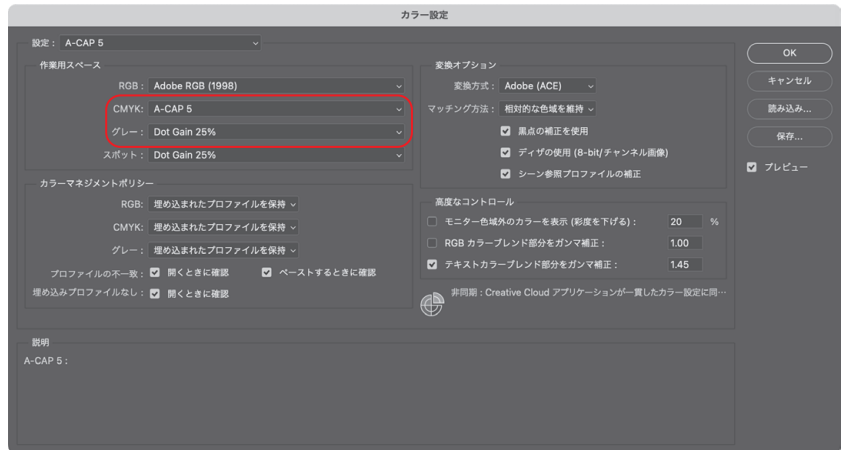
「カラーマネジメントポリシー」

- 制作環境に合わせたカラーマネジメント設定をする。

「変換オプション」

- 変換方法: 任意のCMMを指定。
- マッチング方法: 「相対的な色域を維持」か「知覚的」を必要に応じて選択。

「A-CAP 5」を利用したカラー設定



設定ができれば分かりやすい名前でも保存しておけば、他のカラー設定と切り替えて使うことができます。この設定で、画像データをRGBからCMYKに変換すれば、UCR25%以下の朝日新聞に最適なCMYK画像データが作成されます。この手順で作成したCMYK画像データは、変換後に大幅な色の補正をしないでください。補正の仕方によっては、UCRが許容値を超えてしまうことがあります。

■最終仕上がりのモニタでの確認

「A-CAP 5」を活用して、新聞の紙に印刷した最終仕上がりに近い色味を、モニタで確認することができます。Photoshopのメニューから[表示]→[校正設定]→[カスタム]を開き、シミュレートするデバイスの項目で「A-CAP 5」を選択し、「CMYK値を保持」と「紙色をシミュレート」にチェックを入れます。

モニタで正確な色の確認を行うには、モニタのキャリブレーションが必須です。

校正設定



校正設定で新聞の紙色をシミュレートすることができる。

■保存時のオプション

保存する際には、レイヤーは統合し、不要なアルファチャンネルは削除します。適切なカラーモードに変換し、**ファイル形式はEPS**を選びます。

- 「プレビュー」は、カラーおよびグレースケール画像の場合は「**TIFF (8bit/pixel)**」を、モノクロ2階調画像の場合は「**TIFF (1bit/pixel)**」を選ぶ。「エンコーディング」については、「**ASCII85**」「**ASCII**」「**JPEG- 最高画質 (低圧縮率)**」のいずれかを選ぶ。

※JPEGエンコーディングは非可逆圧縮であり、圧縮率を高く設定すると特に品質が劣化する事があるので注意する。

- モノクロ2階調画像の場合は「**白色部分を透明として扱う**」に必ずチェックを入れる。

- いずれの画像の場合も、上記以外の項目（「ハーフトーンスクリーンを含める」「画像補間方式」等）は**すべてチェックを外す**。



カラー・グレースケール画像

エンコーディングで「バイナリ」は選択しない。また、プレビューは「TIFF (8bit/pixel)」を選択する。



モノクロ2階調画像

プレビューは「TIFF (1bit/pixel)」を選択し、「白色部分を透明として扱う」に必ずチェックを入れる。エンコーディングで「バイナリ」は選択しない。

■プロファイルについて

送稿用の画像データについては、**プロファイルが埋め込まれていると色のトラブルが起こります。プロファイルは埋め込まずに保存します。**

また、外部から支給されたデータを扱う場合も、必ずプロファイルが埋め込まれていないかを確認し、埋め込まれている場合は、プロファイルを埋め込まない設定で保存し直します。

プロファイルを埋め込まずに保存する方法

- 保存時のダイアログの「カラー」の「カラープロファイルの埋め込み: ×××」にチェックが入っていないことを確認する。チェックが入っている場合は、必ず外して保存する。



レイアウトデータを作成する

Illustrator

InDesign

使用アプリケーション **Illustrator** **InDesign**

レイアウトデータの作成に使用するアプリケーションは、**Adobe Illustrator** または **Adobe InDesign**とします。モノクロ原稿の場合は**Illustrator**を推奨します。

※**InDesign**の場合は、モノクロ原稿で「透明」「効果」の使用は不可です。

■サイズ

広告の原稿サイズは、「**原稿サイズ表**」(⇒29ページ)をご参照ください。レイアウトデータのドキュメントのサイズは下記の通り作成します。

Illustratorの場合は、**アートボードのサイズを広告の原稿サイズと完全に一致させ**、すべてのオブジェクトがアートボードからはみ出さないように配置する。

Illustrator

InDesignの場合は、**ページサイズを広告の原稿サイズと完全に一致させ**、すべてのオブジェクトがページサイズからはみ出さないように配置する。

InDesign

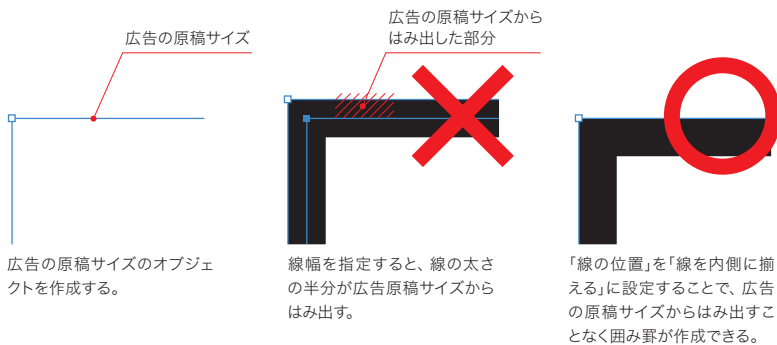
■フォント

使用しているフォントは、必ずすべて**アウトライン化**します。

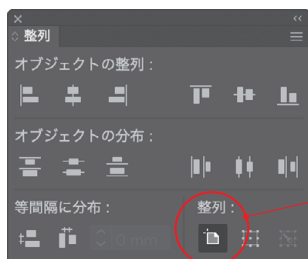
■囲み罫

囲み罫を作成する場合は、「線の位置」を「線を内側に揃える」に設定して、囲み罫のサイズと広告の原稿サイズが完全に一致するようにします。囲み罫がアートボードまたはページサイズからはみ出した場合、罫の一部またはすべてが欠けて印刷される場合がありますのでご注意ください。

囲み罫を線幅指定で作成する場合(例) **Illustrator** **InDesign**

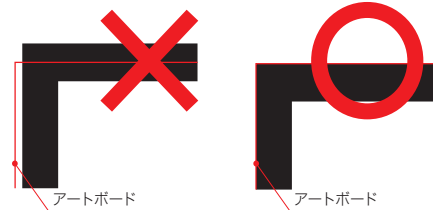


アートボードに整列 **Illustrator**



「整列」パレットでオプションの「アートボードに整列」を選択し、「水平方向中央に整列」および「垂直方向中央に整列」で、囲み罫をアートボードに完全に一致させる。

アートボードに整列

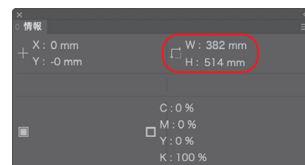
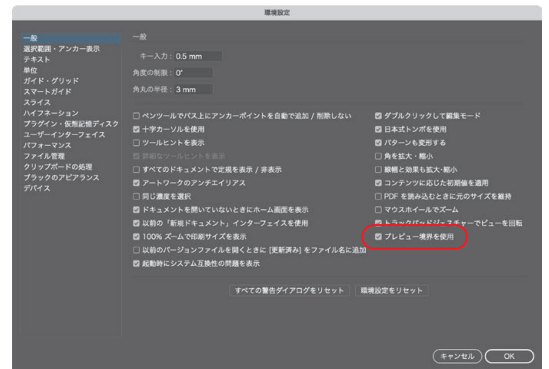


「整列」を使用することにより、正確にアートボードに配置できる。



書類の設定

新規ドキュメントを作成する時に、サイズを広告の原稿サイズにする。詳細設定で「カラーモード」は「CMYK」になっていることを確認する。



Illustratorの場合、「環境設定」または「整列」パレットで「プレビュー境界を使用」にチェックを入れておくと、線幅も含めた正確なオブジェクトサイズを情報パレットで確認できる。

Illustrator



囲み罫やその他のオブジェクトがアートボードまたはページサイズからはみ出した場合、原稿の一部またはすべてが印刷されない場合があります。

■ トンボ

送稿データにはトンボは不要です。

■ 色の指定とオーバープリント

色の指定はカラー原稿の場合はCMYK、モノクロ原稿の場合はグレースケールのカラーモデルを使います。RGB及び特色での指定は不可です。また、「レジストレーション」で指定すると出力エラーとなりますので使用しないでください。

CMYKで指定する場合は、色を正確に表現できなくなることがあるので、4色のインキの総使用量が250%を超えないようにします。また、色の掛け合わせの指定をする場合は、スミ版が90%を超えないようにします。

スミ100%のオーバープリントについては、各アプリケーションでの設定通り反映されます。カラー上にスミ100%の文字やオブジェクトをのせたい場合は、オーバープリントが適用されるように設定してください。スミ100%以外のオーバープリントは、問題が発生しますので不可です。(⇒17、19ページ)

■ 画像データの配置

配置した画像データは、必ずすべて埋め込みます。

■ 「透明」「効果」

「透明」「効果」を使用する場合は、[効果]→[ドキュメントのラスタライズ効果設定]で「解像度」の項目を「その他:350ppi」に設定します。また、モノクロ原稿の場合は、「カラーモード」の項目を「グレースケール」に設定し、透明オブジェクトの分割・統合を行い、適切にグレースケールに変換する必要があります。(⇒12ページ)

※InDesignの場合は、モノクロ原稿で「透明」「効果」は使用できません。

■ パターン・ブラシ

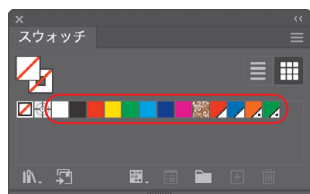
パターン・ブラシを使用している場合は、ラスタライズするか分割処理を行ってください。(⇒20ページ)

■ バージョンについて

異なるバージョンで作成したデータの互換性に注意してください。データを流用する際には、そのデータがどのバージョンで作成されているかを確認し、以前のバージョンで作成したデータの場合は流用せず、新規に作成するようにします。

■ スウォッチの削除

Illustratorを使用する場合は、送稿データを保存する前にスウォッチを削除してください。「なし」「レジストレーション」(Illustrator)または「なし」「レジストレーション」「紙色」「黒」(InDesign)は削除できないので、それ以外のスウォッチをすべて削除します。特色や独自に作成したスウォッチが残っていると出力エラーとなる場合があります。



「なし」(なし)と「レジストレーション」(レジストレーション)以外のスウォッチはすべて削除する。

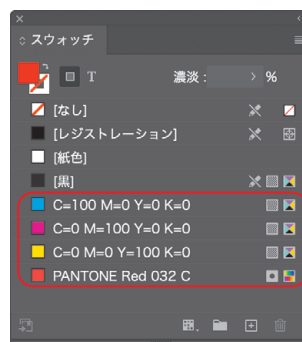
Illustrator



「ドキュメントのラスタライズ効果設定」

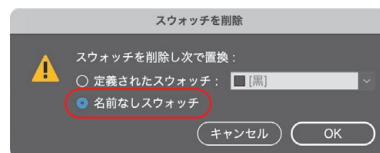


カラー原稿の場合は「カラーモード」の項目を「CMYK」に、モノクロ原稿の場合は「グレースケール」に設定する。



「なし」「レジストレーション」「紙色」「黒」以外のスウォッチはすべて削除する。「スウォッチを削除し次で置換」では「名前なしスウォッチ」を選択する。

InDesign



モノクロ原稿の注意点

Illustrator

モノクロ原稿で「透明」「効果」を使用している場合は、PDFを作成する際にCMYKでイメージが作成されるため、透明オブジェクトをラスタライズし、グレースケールに変換する必要があります。以下の手順で処理してください。

■透明オブジェクトの確認

透明オブジェクトの確認には「分割・統合プレビュー」を使用します。

「分割・統合プレビュー」パレットの「更新」をクリックし、「ハイライト」の項目で「影響されるすべてのオブジェクト」を選択すると、透明オブジェクトと影響を受ける箇所が表示されます。「影響されるすべてのオブジェクト」がグレースケールで表示されている場合は、透明オブジェクトを使用していないので、処理は不要です。

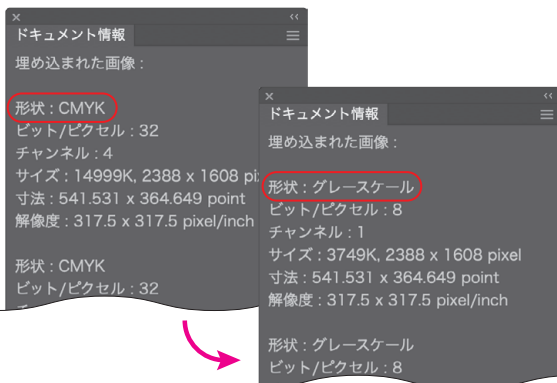


「分割・統合プレビュー」の「影響されるすべてのオブジェクト」で透明オブジェクトと影響を受ける箇所があるかを確認する。

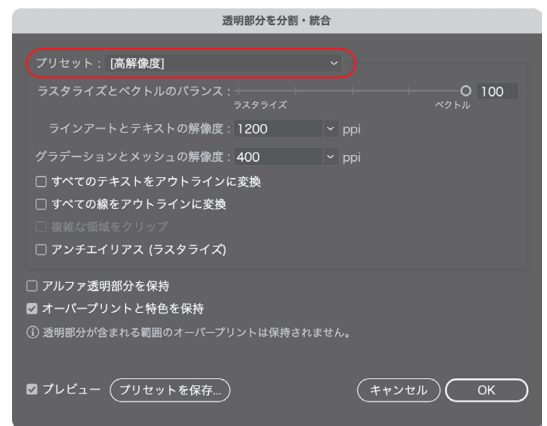
■透明オブジェクトの分割・統合

「分割・統合プレビュー」で確認した透明オブジェクトと影響を受ける箇所をすべて選択し、[オブジェクト]→[透明部分を分割・統合...]で「プリセット」の項目で「高解像度」を選択し、「OK」をクリックします。

続いて分割・統合されたオブジェクトが選択された状態で、[編集]→[カラーを編集]から[グレースケールに変換]を選択し、CMYK オブジェクトをグレースケールオブジェクトに変換します。モノクロ2階調画像はグレースケールオブジェクトに変換すると階調が反転するので、そのまま変換せずに送稿します。



分割・統合されたオブジェクトが適切にグレースケールに変換されたかは、「ドキュメント情報」の「埋め込まれた画像」で確認する。



透明オブジェクトの分割・統合を行う場合は、「プリセット」の項目で「高解像度」を選択する。



埋め込まれたモノクロ2階調画像は、階調が反転するのでグレースケールオブジェクトに変換しない。



モノクロ原稿で「透明」「効果」を使用している場合は、適切な処理を行わないと送稿データの検証(⇒16ページ)でエラーが出るので注意します。InDesignを使用している場合はこの処理が行えないので、モノクロ原稿で「透明」「効果」の使用は不可です。

保存前の確認

送稿用データを保存する前に、以下の点を確認します。

Illustrator

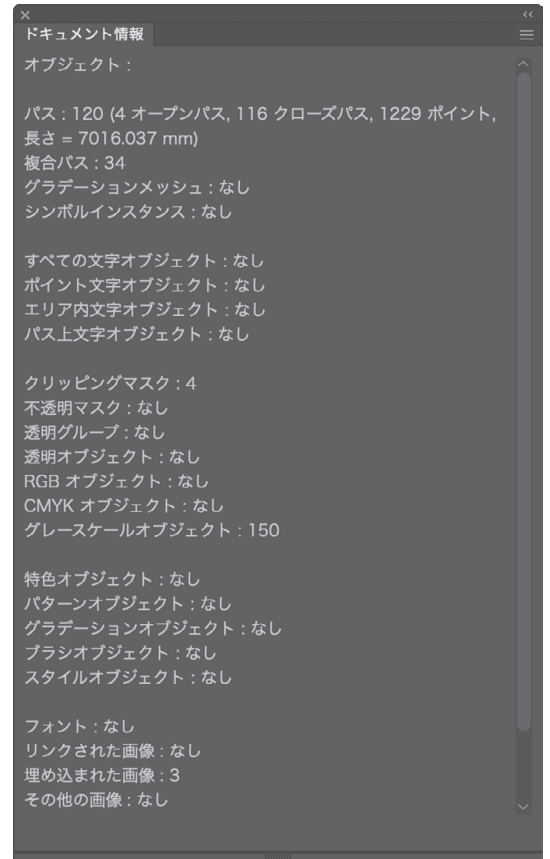
主な項目については「ドキュメント情報」で確認することができます。

■「ドキュメント情報」で確認できる項目

- 「カラスペース」が「CMYK カラー」になっているかを確認する。
- 「RGB オブジェクト」がないことを確認する。
- モノクロ原稿の場合は「CMYK オブジェクト」がないことを確認する。
- フォントがすべてアウトライン化されているかを確認する。
- 配置した画像がすべて埋め込まれているかを確認する。
- モノクロ原稿の場合は埋め込んだ画像がグレースケールになっているかを確認する。

■その他の確認項目

- 広告の原稿サイズとアートボードは完全に一致しているか、またアートボードとズれていないかを確認する。
- 色の指定で、インキの総使用量が250%を超えていないかを確認する。
- 孤立点や不要なオブジェクト、ガイドは削除する。
- レイヤーは1つにまとめておく。
- 「透明」「効果」を使用している場合は、「ドキュメントのラスタライズ効果設定」を正しく設定しているかを確認する。
- 「レジストレーション」と「なし」以外のスウォッチをすべて削除する。



InDesign

「プリフライト」を利用すると、いくつかの情報の確認が容易にできます。プリフライト項目はカスタマイズすることができます。必要に応じて使用してください。

■「プリフライト」で確認できる項目

- 「フォント」: フォントがすべてアウトライン化されているかを確認する。
- 「リンクと画像」: 画像を配置している場合は、すべての画像が埋め込まれているか、「ICCProfile」が「なし」になっているかを確認する。

■その他の確認項目

- 広告の原稿サイズとページサイズは完全に一致しているか、またページサイズとズれていないかを確認する。
- モノクロ原稿の場合は「透明」「効果」を使用していないことを確認する。
- 色の指定をRGBで行っていないか、インキの総使用量が250%を超えていないかを確認する。
- 孤立点や不要なオブジェクト、ガイドは削除する。
- レイヤーは1つにまとめておく。



保存の準備

送稿データを保存する前に、送稿データ作成用の「Adobe PDFプリセット」およびPDFデータ検証用の「プリフライトプロファイル」のインストールを行う必要があります。本データは、下記サイトからダウンロードできます。

朝日新聞社メディアビジネス局 Web サイト「広告朝日」

<https://adv.asahi.com>

[広告朝日]トップ ▶ [媒体資料] ▶ [あっと! デジタル ver.11]

■インストール方法

ダウンロードしたデータを解凍してください。

以下の3つのファイルがあります。

- 朝日新聞2013.joboptions (PDFデータ作成用 Adobe PDFプリセット)
- 朝日新聞カラー 2022.kfp (カラー原稿用プリフライトプロファイル)
- 朝日新聞モノクロ2022.kfp (モノクロ原稿用プリフライトプロファイル)

※プリフライトプロファイルの使用には Acrobat Pro XI以降が必要です。

Acrobat Pro X以前のバージョンの場合は下記のファイルを使用してください。

- 朝日新聞カラー 2022(legacy).kfp (カラー原稿用プリフライトプロファイル)
- 朝日新聞モノクロ2022(legacy).kfp (モノクロ原稿用プリフライトプロファイル)



Illustrator への「Adobe PDFプリセット」のインストール

メニューから[編集]→[Adobe PDFプリセット]を選択し、「読み込み」をクリックしてダウンロードしたファイル「朝日新聞2013.joboptions」を読み込みます。

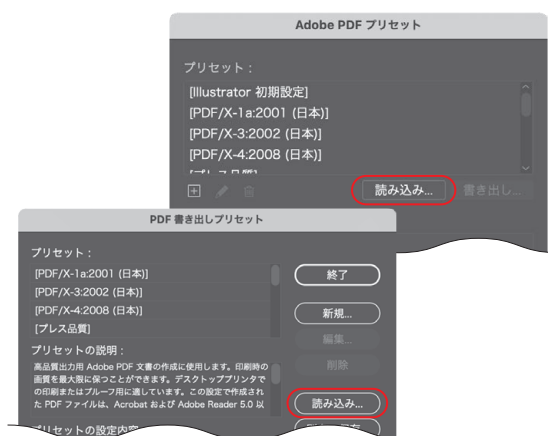
InDesign への「Adobe PDFプリセット」のインストール

メニューから[ファイル]→[PDF書き出しプリセット]→[定義]を選択し、「読み込み」をクリックしてダウンロードしたファイル「朝日新聞2013.joboptions」を読み込みます。

※「Adobe PDFプリセット」のインストールは、IllustratorまたはInDesignのどちらか片方で行えば共用できます。

Acrobat への「プリフライトプロファイル」のインストール

Acrobat Standard、Acrobat Readerは使用できません。メニューから[編集]→[プリフライト]を選択し、オプションから「プリフライトプロファイルを取り込み」を選択してダウンロードしたファイル「朝日新聞カラー2022.kfp」および「朝日新聞モノクロ2022.kfp」を読み込みます。読み込んだプロファイルは「取り込まれたプロファイル」の欄に表示されます。



Illustratorの「Adobe PDFプリセット」(右上)とInDesignの「PDF書き出しプリセット」(左下)



送稿データの保存

送稿データを保存する場合は、朝日新聞の送稿データ作成用「Adobe PDFプリセット」(→14ページ)を使用し、以下のいずれかの手順で行います。これ以外の方法で作成したPDF送稿データでは、問題が発生する場合があります。

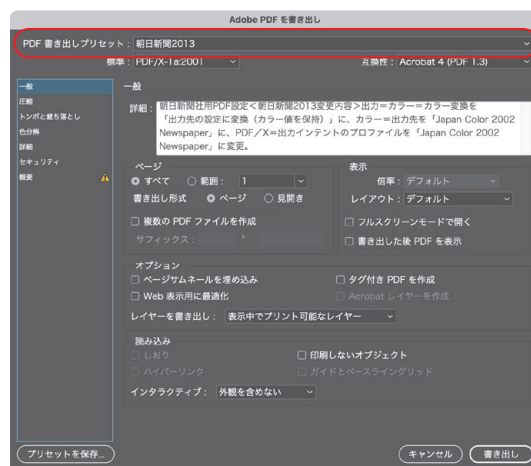
Illustrator からPDFを書き出す

- 保存の際に「フォーマット: Adobe PDF(pdf)」を選択。
- 「Adobe PDFプリセット」は「朝日新聞2013」を選択する。この時、各種設定を変更しないで保存する。



InDesign からPDFを書き出す

- 書き出しの際に「フォーマット: Adobe PDF」を選択。
- 「PDF書き出しプリセット」は「朝日新聞2013」を選択する。この時、各種設定を変更しないで保存する。



送稿データの検証

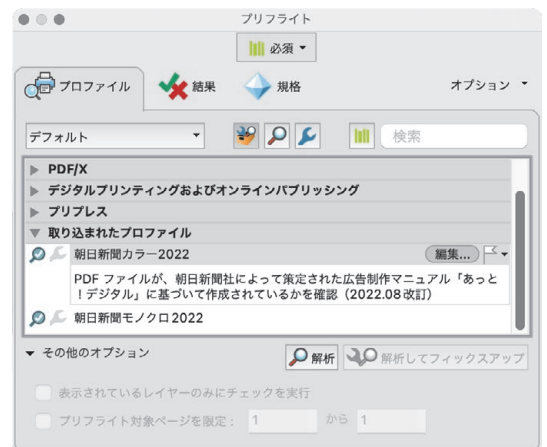
送稿データは、Adobe Acrobatの「プリフライト」(①)および「出力プレビュー」(②)を使用して検証をします。

送稿データの検証は、以下の要領で行います。

①プリフライト

プリフライトの実行

- メニューから[編集]→[プリフライト]を選択する。
- 検証用のプロファイルは、カラー原稿の場合は「朝日新聞カラー2022」、モノクロ原稿の場合は「朝日新聞モノクロ2022」を選択する。
- 「解析」をクリックして検証を行う。

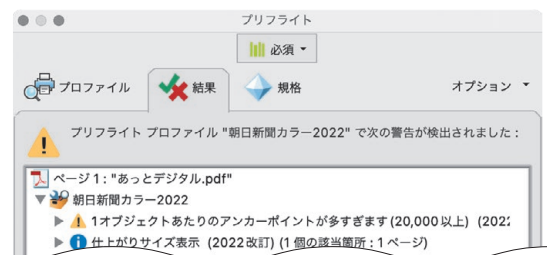


プリフライトの結果

プリフライトの結果で**エラー**が表示されたら、不具合のある箇所を確認し、レイアウトデータを修正します。**警告**が表示されたら、情報に基づいて確認作業を行い、必要があれば不具合のある箇所を修正して送稿します。不明な点は弊社までお問い合わせください。



○ エラーや警告が検出されなかった場合は、そのまま送稿する。



△ 警告が検出された場合は、指摘された箇所を確認し、問題があれば修正を。なければそのまま送稿する。



✖ エラーが検出された場合は、不具合のある箇所を確認し、レイアウトデータを修正する。

②出力プレビュー

インキの総使用量の確認

インキの総使用量が250%を超えている個所がないかを確認するには、以下の手順で検証します。

- メニューから[表示]→[ツール]→[印刷工程]→[出力プレビュー]を選択。
- 「プレビュー:色分解」を選択し、「領域全体をカバー」にチェックを入れ、「251%」を入力する。

プレビューウィンドウ内で■色に覆われた個所があれば、そこはインキの総使用量が250%を超えています。250%以内にデータを修正します。

また、プロセス4色以外の特色や、モノクロ原稿でスミ以外の色を使用している場合も、この項目で確認できます。



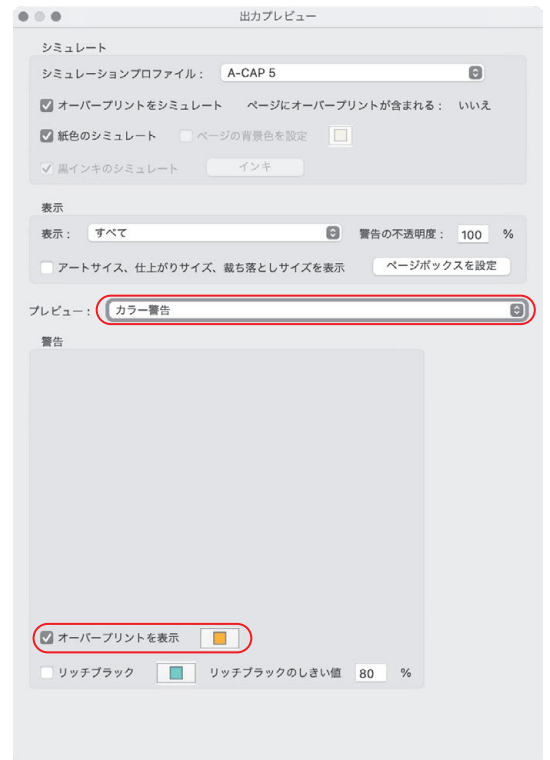
オーバープリントの確認

オーバープリントの設定が適切に行われているかを確認するには、以下の手順で検証します。

- メニューから[表示]→[ツール]→[印刷工程]→[出力プレビュー]を選択。
- 「プレビュー:カラー警告」を選択し、「オーバープリントを表示」にチェックを入れる。

プレビューウィンドウ内で■色に覆われた個所があれば、そこはオーバープリントが設定されています。

スミのオーバープリントが正しく設定されているか、または色網にオーバープリントが適用されていないかを確認します。(⇒ 19ページ)



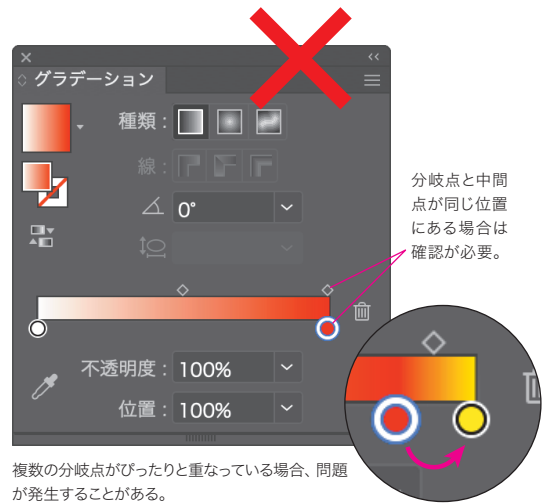
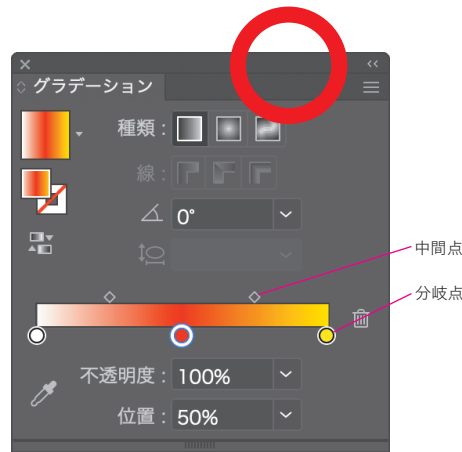
出カトラブルの回避

■グラデーションの注意点

Illustratorでグラデーションを使用する場合は、以下の点に注意してください。 **Illustrator**

異なる色が割り当てられている複数の分岐点が、同じ位置でぴったりと重なっている場合は、出力エラーとなる場合があります。分岐点と中間点と同じ位置にある場合は修正します。

また、線にグラデーションを指定したり、孤立点にグラデーション指定があると出力エラーとなります。



複数の分岐点がぴったりと重なっている場合、問題が発生することがある。

■線の指定の注意点

2点を直線で結ぶ線(パス)に、線幅を設定しないで塗りで色を指定すると、モニタ画面上では見えていても印刷されないので注意が必要です。またこの時、塗りがグラデーションで指定されていると、出力エラーとなります。 **Illustrator InDesign**

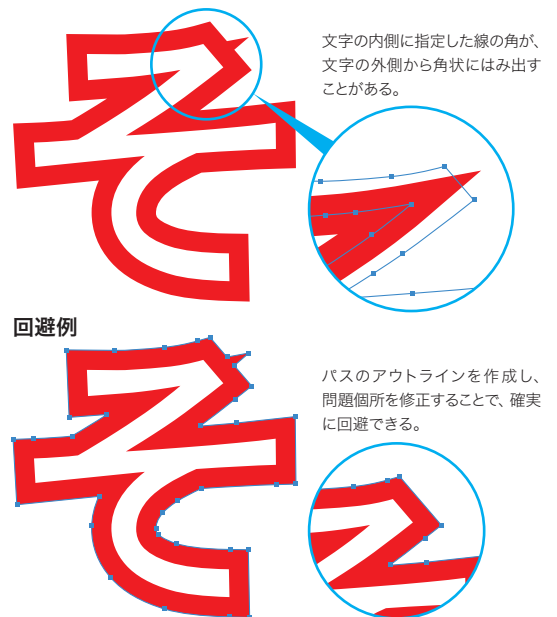


■ふち取り文字の注意点

ふち取り文字を使用する場合、鋭角な角の部分に不要な角状のオブジェクトが印刷されてしまうことがあります。これは文字に線の指定をした際に、内側の角が文字の外側からはみ出してしまうことにより発生します。特に細いフォントや、線幅の数値が大きい指定をした場合は、発生しやすくなります。 **Illustrator**

この症状は、モニタ画面や印刷の解像度の違いから、モニタ画面上やゲラでは確認できず、印刷時にのみ発生する場合がありますので注意が必要です。回避するために、できるだけ以下の方法でデータを作成してください。

- 線の指定をした文字をアウトライン化し、Illustratorの[オブジェクト]→[パス]→[パスのアウトライン]でパスのアウトラインを作成し、問題箇所があれば修正をする。



回避例

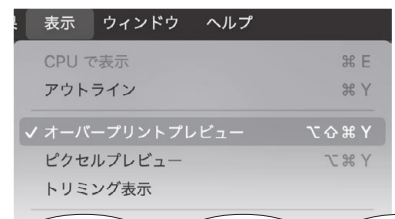
パスのアウトラインを作成し、問題箇所を修正することで、確実に回避できる。

■ オーバープリントの注意点

スミ100%以外のオーバープリントは、出力 **Illustrator InDesign** トラブルにつながります。また、カラー上の白オブジェクトなど、必要のないオブジェクトにオーバープリントが設定されていると、画面上の表示と出力結果が異なる場合がありますのでご注意ください。

「オーバープリントプレビュー」を活用することにより、出力結果をシミュレートできます。

IllustratorやInDesignのメニューから[表示]→[オーバープリントプレビュー]を選択する。



オーバープリントの設定がされていても、画面上では確認できず、意図しない出力結果になる場合がある。

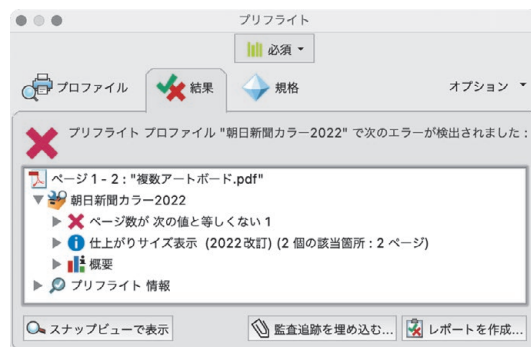


「オーバープリントプレビュー」を利用することで、画面上で出力結果をシミュレートすることができる。

■ 複数ページを含む送稿データの注意点

複数のアートボード (Illustrator) またはページ (InDesign) を設定している場合は、送稿データを保存する前に不要なアートボードを削除し、1つのアートボードまたはページのみになります。送稿データに複数のページが含まれていると、出力トラブルの原因になります。

Illustrator InDesign



送稿データに複数のページが含まれていると、Acrobatのプリフライトの結果でエラーとなる。

■ パスの多いデータの注意点

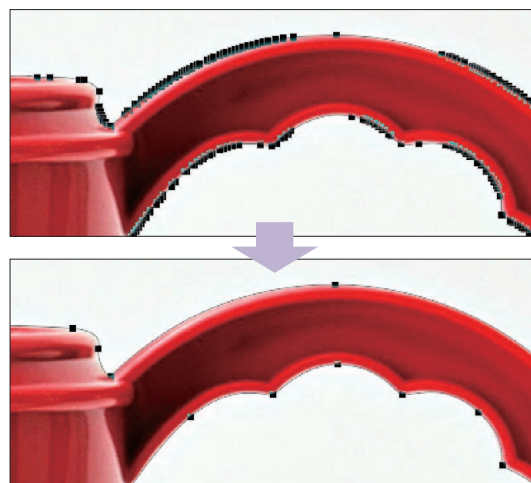
複雑なパスを多く含むオブジェクトが使用されると、出力エラーとなる場合があります。必要以上に複雑なクリッピングパスはできるだけシンプルなパスに変更し、パスの多いオブジェクトの一部をマスクして使用する場合は不要な部分は削除するなどの工夫をお願いします。

Photoshop Illustrator



複雑で大きなマップのデータなどの一部をクリッピングマスクで使用する場合は、不要な部分はできるだけ削除し、データが軽くなるようにする。

Illustrator

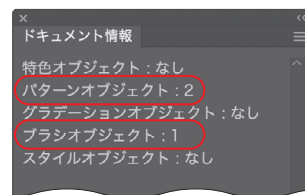


Photoshopで作成するクリッピングパスは、必要以上に複雑にせず、できるだけシンプルにすることで出力エラーを回避できる。

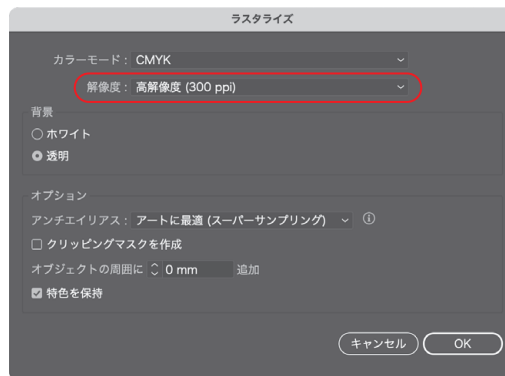
Photoshop

■パターン・ブラシの注意点

Illustratorでパターン・ブラシを使用している場合に、出力エラーとなる場合があります。使用している場合は、①オブジェクトを選択し、メニューから[オブジェクト]→[ラスタライズ]で画像に変換。または、②オブジェクトを選択し、パターンの場合はメニューから[オブジェクト]→[分割・拡張]、ブラシの場合は[オブジェクト]→[アピアランスの分割]のいずれかの処理を行ってください。



Illustratorでは「ドキュメント情報」でパターンとブラシが使用されているかを確認できる。



「ラスタライズ」で画像に変換する場合は、「解像度」は「高解像度(300dpi)」を選択する。



パターンの場合は「分割・拡張」、ブラシの場合は「アピアランスの分割」の処理でも可。

■送稿データ(PDF)の加工の注意点

各アプリケーションから書き出した送稿データ(PDF)は、Acrobatなどで加工をしないでください。修正が必要な場合は、各アプリケーションで作業し、再度書き出しを行ってください。

送稿データ作成用の Adobe PDF プリセットで書き出した PDF はフォームフィールドは含まれませんが、Acrobatなどでフォームや注釈を加えると出力エラーとなります。PDF にフォームフィールドが含まれているかは以下の手順で確認できます。

- Acrobatの「環境設定」の「フォーム」の項目で、「フォームフィールドを自動的に検出」と「ポインターで触れたときのフィールドの境界線の色を表示」にチェックを入れる。(下)
- 書類にフォームフィールドがあればハイライト表示される。(右)



フォームフィールドが確認された場合は、本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直し、保存後は加工をせずに送稿する。



送稿後、エラーで困ったときは——

送稿後にデータの不具合によりエラーが発生した際に、送稿エラー時のメッセージにより原因を特定できる場合があります。弊社担当者に送稿エラー時のメッセージの内容を確認し、以下を参照しご対応ください。

送稿エラー時のメッセージ	原因	対処法
TAC値エラー	インキ総使用量が250%をオーバーしている。	「インキ総使用量の確認」を参照し、インキ総使用量が250%オーバーしているオブジェクトを見つけて、250%以内に収まるように修正する。 (⇒17ページ)
パターン使用	パターンで指定されたオブジェクトがある。	「パターン・ブラシの注意点」を参照し、エラー検出されたパターン・ブラシを「ラスタライズ」または「分割」する。(⇒20ページ)
オーバープリント	色網にオーバープリントが設定されている。	「オーバープリントの確認」を参照し、オーバープリント設定を確認し、スミのオーバープリント設定が正しくされているか、色網にオーバープリントが設定されていないことを確認。(⇒17、19ページ)
レジストレーションカラー	レジストレーションカラーで指定されたオブジェクトがある。	「色の指定とオーバープリント」を参照。レジストレーションカラーは使用しない。(⇒11ページ)
フォームフィールドあり	送稿データ(PDF)にフォームフィールドがある。	本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直し、書き出した送稿データ(PDF)は、Acrobatなどで加工をしない。(⇒13～15、20ページ)
透明効果あり	透明オブジェクトがある。	『「透明」「効果」』の設定を参照し、本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直す。 (⇒11～15ページ)
スポットカラー	スポットカラーで指定されたオブジェクトがある。	特色などのスポットカラーで色を指定していたら、適切な色で指定し直す。不要なスウォッチは削除する。(⇒11ページ)
PDF/X出力intent指定なし	PDF/Xの規格に準拠していない。	本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直す。 (⇒13～15ページ)
PDF/X-1a:2001適合しない	PDF/X-1aの規格に準拠していない。	本マニュアルに記載のPDFの保存方法で保存し直す。 (⇒13～15ページ)

送 稿

ワークフロー

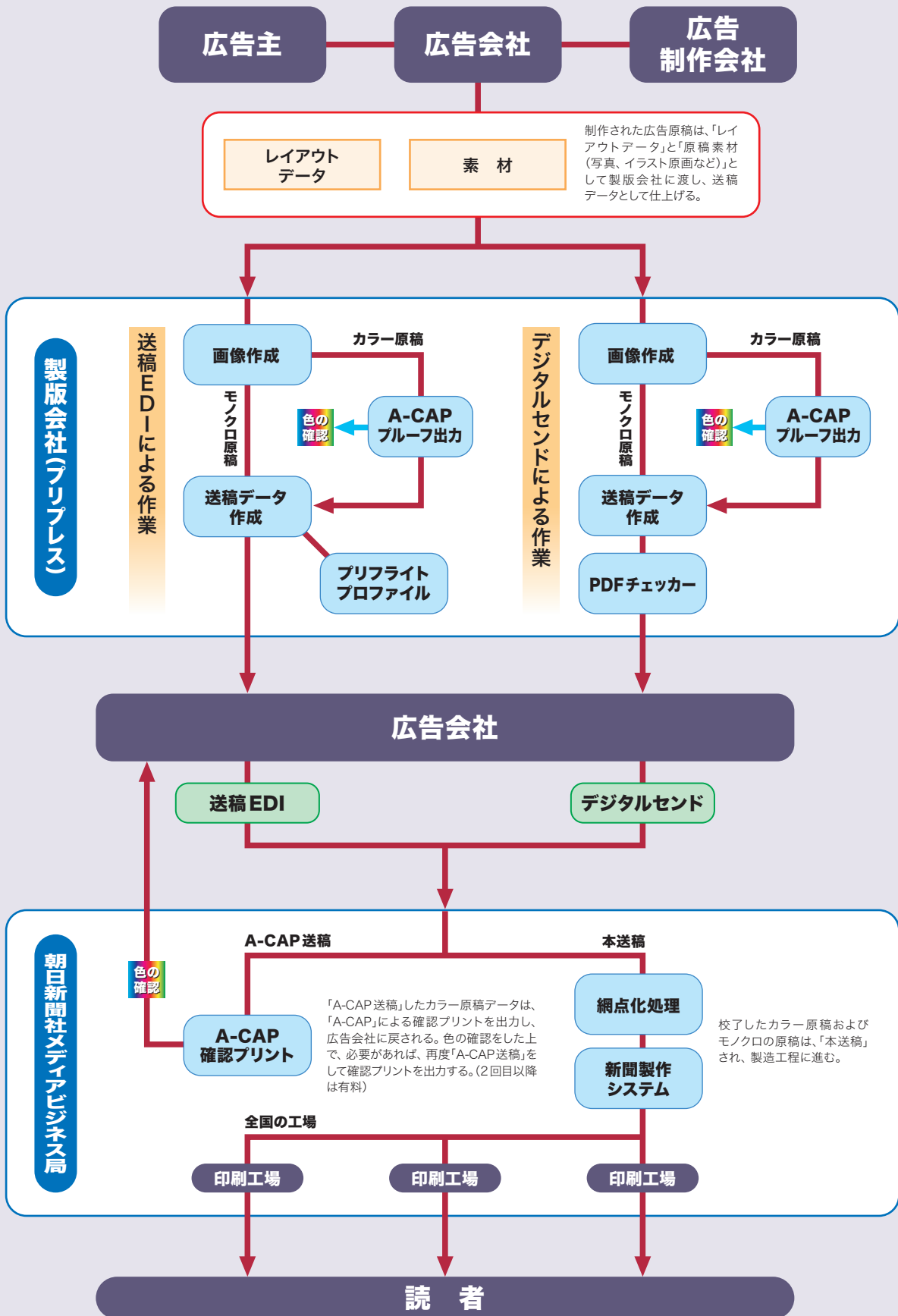
本送稿の手順

ゲラ書き

送稿の種類

A-CAP送稿

原稿制作から送稿、新聞掲載までの流れ



「A-CAP」のプロファイルを導入している製版会社ならばどこでも「A-CAP」と同様のプルーフを出力することが可能。

本送稿の手順

朝日新聞の広告原稿を送稿する方法は「送稿EDI」または「デジタルSEND」を利用したオンライン送稿となります。

カラー広告の場合は、色校正ゲラ添付が不要のA-CAPによる送稿が可能です。本送稿の前に「A-CAP送稿」を行ってください。A-CAP送稿についての詳しい手順は、27ページをご参照ください。

※パノラマ判については別途ご相談ください。

本送稿に必要なもの

■送稿データおよびゲラ

		送稿データ	ゲラ
送稿EDI	カラー	○	○ ^{※1}
	モノクロ	○	— ^{※2}
デジタルSEND	カラー	○	○ ^{※1}
	モノクロ	○	— ^{※2}

※1: 校正ゲラを添付。

※2: 送稿時に自動生成されるので不要。

■カラー広告の送稿に必要な色校正ゲラの枚数

	朝刊通し	セット版	夕刊
東京本社版	42枚	36枚	28枚
大阪本社版	25枚	22枚	21枚
西部本社版	12枚		7枚
名古屋本社版	7枚		
北海道支社版	8枚		

本送稿日(本紙)

送稿日は以下の通りです。

カラー原稿の場合	色校正ゲラ	掲載日の4営業日前の14時(朝刊・夕刊共通)
	A-CAPゲラ	ブルーフ入稿(出力依頼)は掲載日の3営業日前 入稿(校了)は掲載日の2営業日前
モノクロ原稿の場合		掲載日の1営業日前(朝刊は14時、夕刊は17時)

ゲラには以下の項目を明記します。

■必須項目

- A** 掲載社 (掲載社ごとに掲載日が異なる場合は、それぞれ明記します。)
- B** 掲載日 (日幅のある申し込みで掲載日が決定していない場合は、申し込み日幅を明記します。)
- C** 刊別
- D** 広告主名 (申し込み広告主名と必ず同一にします。覆面申し込みの際は、覆面広告主名を明記します。)
- E** 広告件名 (申し込み広告件名と必ず同一にします。覆面申し込みの際は、覆面広告件名を明記します。)
- F** 掲載段数 (サイズ)
- G** 色種別
- H** 広告会社名

■その他

- 企画広告内の原稿の場合は、**企画広告名**も明記します。
- 各社にまたがる申し込みの場合は、各社同一原稿か、別原稿かを明記します。
また、別原稿の場合は、別原稿部分をマーカーなどで明瞭にします。
- 改稿原稿の場合は、改稿部分をマーカーなどで明記します。
- 社罫が不要な場合は、不要な箇所を明記し、不要部分を点線で指示します。

■ゲラ書き項目詳細例

ナンバー	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
項目	掲載社	掲載日	刊別	広告主名	広告件名	掲載段数	色種別	広告会社名	備考	審査印
記入内容 (例)	朝日・北海道 朝日・東京 朝日・名古屋 朝日・大阪 朝日・西部	5/22	朝刊 通し 朝刊 統合 朝刊 セット 夕刊	〇〇〇〇社 △△△△△	〇〇〇電話 △△△発表	小型 (表札) 小型 (記事中) 小型 (突出し) 記事下 3段 記事下 5段 記事下 7段 記事下 15段 記事下 30段	カラー モノクロ	〇〇広告社	C版なし3色 K版切替あり	※印が押せる スペースを 確保する

■記入例

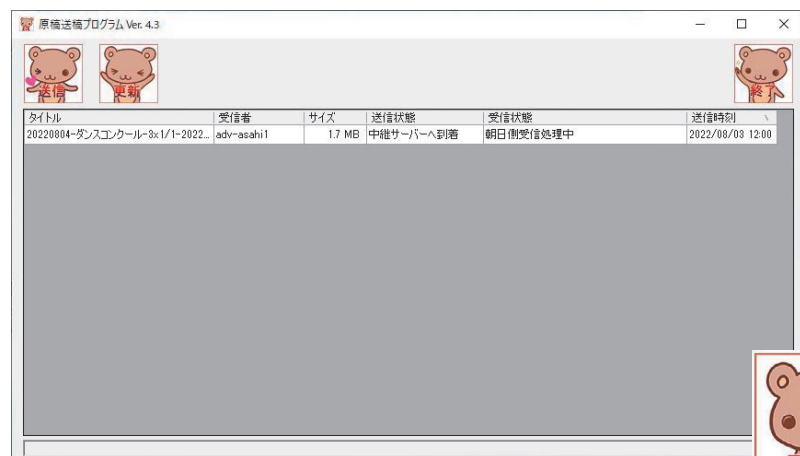
項目があれば書く。
何もなければ「なし」と書く。

A 朝日・東京
B 10/1
C 朝刊通し
D 〇〇〇〇社
E 〇〇〇〇
F 記事下15段
G カラー
H 〇〇〇〇〇〇社
I 備考 K版切替あり
J 審査印

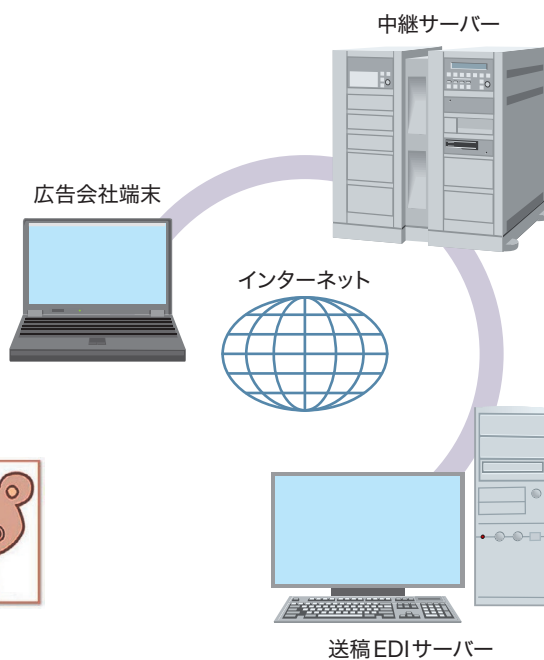
送稿の種類

送稿 EDI

朝日新聞社の送稿は「送稿EDI」で行います。パソコンに専用のアプリケーションをインストールし、中継サーバーを介して送稿を行います。送稿EDIの使用方法など、詳しくは弊社までお問い合わせください。(▶表4ページ)



送稿EDIの操作画面とアイコン



デジタルセンド

朝日新聞社へのオンライン送稿は(株)デジタルセンドのオンライン送稿も利用できます。(株)デジタルセンドに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

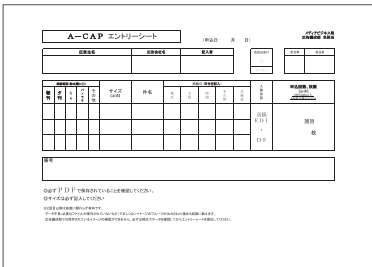
☎ 03-5572-7781 Webサイト <http://www.digital-send.com>

カラー広告を送稿する場合は、校正ゲラを添付する方法と、「A-CAP送稿」を利用する方法があります。A-CAP送稿では、掲載時に近い状態で色の最終確認が行え、確認プリントを念校ゲラとして代用することができます。使用にあたっては朝日新聞掲載が条件となります。A-CAP送稿を利用する場合は、本送稿前に行います。

オンライン送稿について、詳しくは弊社までお問い合わせください。

A-CAP送稿

「A-CAPエントリーシート」に記入し、担当者にお渡しください。



■A-CAP エントリーシート
 広告会社の方は、「A-CAPエントリーシート」に必要な事項を記入する。

確認プリント

A-CAP出力した確認プリントをお戻しします。直しがある場合は2回目の出力をします。

- 1回目の出力
確認プリントとして5枚(審査用ゲラ1枚を含む)を無料出力。
6枚目からは有料*。
- 2回目以降の出力
プレミアムプリントは有料*。
1回に10枚まで。
*有料時は1枚につき5,000円(税別)。

確認プリントのお渡し

午前受け付け分	当日の夕方
午後受け付け分	翌日の午前中

本送稿

規定の送稿日までに送稿データを本送稿し、「A-CAP出力紙1枚(念校)」を担当者にお渡しください。

規 格

原稿サイズ表

FMスクリーンについて

チェックシート

カラー、モノクロともに原稿サイズは下記の表を適用してください。下記に表記のない、小型広告、変形広告、パノラマワイド、パノラマ6、エリア広告特集など、特殊サイズの広告については弊社までお問い合わせください。

■原稿サイズ

天 地		左 右	
1段	32mm	全段	382mm
2段	66mm	2割	190mm
3段	101mm	3割	126mm
4段	135mm	4割	94mm
5段	170mm	5割	75mm
6段	204mm	6割	62mm
7段	239mm	7割	53mm
8段	273mm	8割	47mm
9段	307mm	9割	41mm
10段	342mm	10割	37mm
11段	377mm	12割	30mm
12段	411mm	14割	26mm
13段	445mm	16割	22mm
14段	480mm	18割	20mm
15段	514mm	二連版	789mm

編集記事の段組み(12段制)とは異なります。

新聞協会推奨の広告原稿入稿サイズ「N-SIZE」での入稿も可能です。

→「N-SIZE」

天 地		左 右	
1段	32mm	全段	378mm
2段	66mm	2割	188mm
3段	100mm	二連版	784mm
5段	168mm		
7段	237mm		
10段	339mm		
15段	511mm		

■ユニット広告原稿サイズ

	ユニット	天 地	左 右
記事中	1/2U	40mm	25mm
	1U	40mm	50mm
突き出し	2段 2U	83mm	50mm
	3段 3U	126mm	50mm
	4段 4U	170mm	50mm
	1段横 2U	40mm	100mm
	2段横 3U	83mm	75mm
	2段横 4U	83mm	100mm

ユニット広告は、1ユニット(1U)を基本単位とします。「記事中ユニット」は記事の中、「突き出しユニット」は記事の左端・右端に位置します。

■ハーフページ原稿サイズ

	天 地	左 右
ハーフページ	256mm	380mm
ハーフページ二連	256mm	787mm

FMスクリーンについて

朝日新聞のカラー広告を送稿する際にご利用いただいているA-CAPシステムは、FMスクリーンに対応しています。朝日新聞で採用しているFMスクリーンでは以下のメリットがあります。

- 高精細なディテールの再現性。
- モアレ、ロゼッタパターンが発生しない。
- より原色に近い鮮やかな色調。
- 滑らかな階調表現。

■ ディテールの再現性

従来のAMスクリーンは、階調を網点の大きさを変えることで表現していました。FMスクリーンでは、均等な大きさの細かいドットを、密度を変えて配置することで階調を表現します。ドットの大きさを微細化・均一化することで、より高精細なディテール表現が可能となっています。

■ モアレの解消

AMスクリーンにおいて、網点を線数に応じて等間隔に配置するために発生する、モアレやロゼッタパターンは回避が難しいものでした。FMスクリーンではドットをランダムに配置するために、これらの問題が発生することがありません。また、ドットの微細化により、線切れやジャギーも目立ちません。

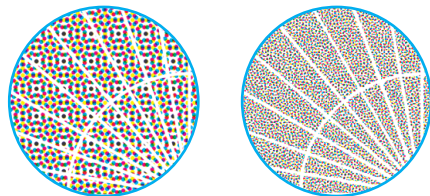
■ 仕上がりの安定性

FMスクリーンでは小さいドットのみを使用しますので、濃度の高い部分でのインキの供給量の変動による影響を受けにくく、安定した品質が得られます。またインキの重なりが少ないため、濁りの少ない鮮やかな色調が再現でき、インキの乾燥という点でも優れています。

■ 滑らかな階調表現

FMスクリーンは階調が豊富なため、繊細で滑らかな階調表現が可能となります。

ディテールの違い

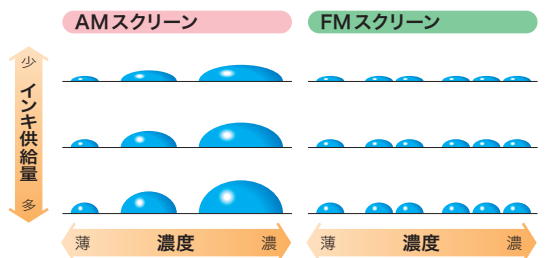


AMスクリーン

FMスクリーン

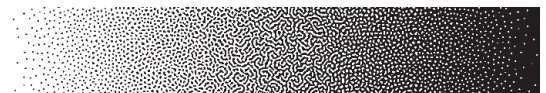
FMスクリーンのドットは小さく、ランダムに配置されるので、高精細なディテールが再現でき、モアレやロゼッタパターンが発生しにくい。

インキの供給量による影響



FMスクリーンのドットは小さく大きさが均一で、インキの供給量の変化による影響を受けにくいので、色の再現性が安定している。

滑らかな階調



FMスクリーンでは滑らかな階調表現が可能となる。

チェックシート

完成した送稿データは、送稿の前に必ず以下のチェックシートに従い、すべての項目について確認を行ってください。

チェック欄

	アプリケーションはバージョンも含め、指定のもので制作しているか。(⇒5ページ)	
画 像	インキの総使用量が250%を超えていないか。(⇒7ページ)	
	画像データのカラーモードは、モノクロの場合グレースケールまたはモノクロ2階調に、カラーの場合はCMYKカラーに指定されているか。RGBまたは特色で指定していないか。(⇒7ページ)	
	画像データにプロファイルが埋め込まれていないか。(⇒9ページ)	
	画像の形式および解像度は適切か。(⇒7ページ)	
レ イ ア ウ ト	原稿サイズおよびアートポート(Illustrator)またはページサイズ(InDesign)は合っているか。はみ出ている部分はないか。(⇒10ページ)	
	Illustratorで罫線を引いた場合、線の指定は正しくできているか。また罫線で囲ってある原稿の場合、線幅が原稿サイズからはみ出していないか。(⇒10ページ)	
	レイアウトデータのカラーモデルは、カラー原稿の場合はCMYKに、モノクロ原稿の場合はグレースケールに指定されているか。RGBで指定していないか。(⇒11ページ)	
	モノクロ原稿の場合は、Illustratorで作成しているか。InDesignでモノクロ原稿を作成した場合は、「透明」「効果」を使用していないか。(⇒10・11ページ)	
	フォントはすべてアウトライン化しているか。(⇒10ページ)	
	配置した画像はすべて埋め込んでいるか。(⇒11ページ)	
	「透明」「効果」を使用している場合は、「ドキュメントのラスターライズ効果設定」および保存時の設定を適切に行っているか。(⇒11ページ)	
	モノクロ原稿(Illustrator)で「透明」「効果」を使用している場合は、透明オブジェクトをラスターライズし、適切にグレースケールに変換しているか。(⇒12ページ)	
	孤立点などの不要なデータは削除しているか。(⇒6ページ)	
不要なスウォッチ(「なし」「レジストレーション」以外<Illustrator>または「なし」「レジストレーション」「紙色」「黒」以外<InDesign>)をすべて削除したか。(⇒11ページ)		
フ ァ イ ル 管 理	送稿データのプリフライトチェックおよび出力プレビューでの確認を行ったか。(⇒16・17ページ)	
	送稿データのウイルスチェックを行ったか。	

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page.

Adobe、Adobe Acrobat、Adobe Illustrator、Adobe InDesignおよびAdobe Photoshopは、Adobe, Inc. (アドビ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。Mac、macOSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。その他記載されているブランド名・製品名は、個々の所有者の商標、もしくは登録商標です。

このマニュアルの内容の無断転載を禁じます。このマニュアルの仕様は変更される場合があります。

このマニュアルに規定されていない設定をお使いの場合は、事前にテスト送稿していただくか、弊社までお問い合わせください。



朝日新聞

「あっと!デジタル」は下記Webサイトからダウンロードできます。

朝日新聞社メディアビジネス局Webサイト「広告朝日」

<https://adv.asahi.com>

[広告朝日]トップ▶[媒体資料]▶[あっと! デジタル ver.11]

※OS、アプリケーションのバージョンアップ対応などの最新情報が閲覧できます。

■お問い合わせは

東京本社メディアビジネス局編成管理部 ☎ 03-5540-7770

大阪本社メディアビジネス局編成管理部 ☎ 06-6201-8330

西部本社メディアビジネス部 ☎ 092-477-6623

※北海道・名古屋紙面については、東京本社・広告編成部までお問い合わせください。

